



PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

LETTER

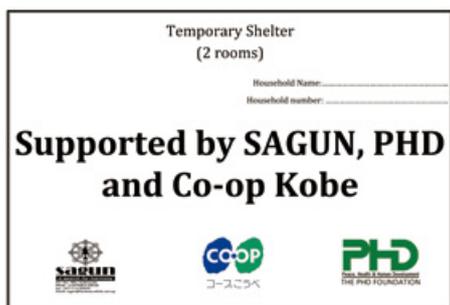
131

2016. 3

PHD 運動とは 1962 年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの 10 パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981 年からはじまりました。

発行：公益財団法人 PHD 協会  
住所：〒650-0003 神戸市中央区山本通 4 丁目 2-12  
山手タワーズ 601  
TEL：078-414-7750 FAX：078-414-7611  
E-mail：info@phd-kobe.org  
URL：http://www.phd-kobe.org  
郵便振替口座：公益財団法人 PHD 協会 01110-6-29688

報告 インドネシアで新プロジェクト・・・ P. 8  
ネパール大地震被災地支援・・・ P. 10



各仮設住宅に貼るステッカー



コープこうべの組合員の皆様から約 1500 万円ものネパール緊急募金をいただいた。  
ありがとうございました。  
そして 2015 年 12 月本田英一組合長が現地を訪問してくださった。

マンガルタールでは「仮設住宅」と「大工トレーニング」、  
ガハテ村ではお母さんたちの「命の水」プロジェクト、それぞれ進行中。

地震がつなぐ「こうべ」とネパール (カブレ) の縁、好ましいものではないかも知れない。  
ただ困ったときはお互いさま。20 年前、私たちも多くのご支援をいただいた。  
今度は私たちがお返しを。

# PHD Movement vol.14

## ～分かち合い実践録～

事務局長 坂西卓郎

### ゾンさんの半生とPHD協会のこれから

#### ◆「私は親の愛を知らない」

坂西のパソコンのデスクトップには「4.25」というフォルダがある。言わずと知れたネパール大震災の日である。しかし、このフォルダは地震のことでなく、その日にPHD協会の事務所で行われたある会の記録が入っている。研修生来日直後、まだお互いにコミュニケーションがとれない研修生同士の交流を深めるため、通訳の方に来ていただいてお互いの人生や村について語り合う場を持った。ある方の提案で、初めて実施した。

冒頭の言葉はその際にゾンさんが発したものだ。以下、ゾンさんの言葉で伝えたい。

「両親は私が6才の時に離婚した。それから私は一人で暮らしてきた。だから親の愛をよく知らない。母は再婚し、父親が違う妹が4人いる。私は母か父かを選ぶことはできず、6才からは妹と親戚の家でお世話になった。でも、そこは村から車で4時間離れた町だった。その町でなかなか馴染めずに13才で村に帰ってきた。それから一人で仕事をして生きてきた。だから小学校しか卒業していない。生きていくためにはそれどころじゃなかった。畑も田んぼもなく、できることは肉体労働だけだった。いろんなところに行った。スマトラだけじゃなく、ジャワでも何年も暮らした。正直なところ人に言えないようなこともしてきている。今はそのことは反省しているし、イスラムの教えを忠実に守っている」

そういうゾンさんの体には刺青を消した痕がある。今は笑顔を絶やさずに常に温かなゾンさんだが、その昔は余程の苦労があったのだろう。もちろん上記はゾンさんの半生の一部でしか

いが、それだけでも大変な10代を送ってきたことがわかる。

#### ◆「家族と一緒に暮らしたい」

そして「きれいな奥さん」と語るデウィさんと結婚をする。現在は4人の子どもを持つお父さんだ。「親の愛を知らない」というゾンさん、誰よりも家族とともに暮らすことを望んでいるが、それは未だ実現していない。

なぜならゾンさんの家庭はmiskinと言われる貧困世帯で、田んぼや畑が十分にはない。「今までの研修生の中で一番貧乏」とゾンさんはよく言うが、事実山で木の伐採に従事したり、炭鉱などで危険な仕事をしている。山に入ると一ヶ月は戻れないとのこと。家族と住んでいる家も貧困世帯ということで政府から支援を受けて建てたものだ。



伐採する木はこれぐらいの巨木で危険を伴う



政府の支援で建てた家

「家族と一緒に居たい」とゾンさんは言う。「でも、どうしたらいいかわからない、私には田畑も教育もないからね。

だから日本に来たかった」、ゾンさんの日本での研修が有機農業だけでなく魚の養殖、畜産もカバーされているのはこのためだ。原稿執筆時点の2月初旬では養鶏や牛の飼育をしてみたいと語っている。



ゾンさんが愛する家族

#### ◆これからの研修生とPHD協会の挑戦

ゾンさんは今後家族と一緒に過ごせるのだろうか。これは当会にとっても一つの挑戦である。ゾンさんは研修生になり、日本に来ることができた。ただ地域にはゾンさんのような貧困世帯は多い。かつては自給自足が中心だった村も今は昔、医療費、教育費、冠婚葬祭費と現金収入が欠かせなくなった。まずはゾンさんが家族と暮らせるように、そしてその後はモデルとして地域に広げていきたい。「家族と一緒にごはんを食べる」、そのささやかだが大事な目標の実現に向けてゾンさんたちと今後も頑張っていきたい。当会はその一つとして肉牛を貧困者層に貸し出すプロジェクトを始めた。続報をご期待ください。

#### ネパール

#### 希望を紡ぐ大工、石工プロジェクト

#### ◆コープこうべの皆様に感謝！

コープこうべの組合員の皆様からいただいた約1500万円のご寄附で2つの地域の支援を行っている。今年度の研

修生カンチさんの出身地域では現在2つのプロジェクトを進めている。①仮設住宅の建設支援、②大工と石工のトレーニングである。①に関しては約250世帯を支援しているが、その報告はp.10に譲り、ここでは②のトレーニングについて報告したい。

#### ◆復興までの道筋が見えない

原稿執筆時点の2月、ネパールも日本と同じように寒い。被災者の方々は満足な住居もなく、寒さに耐える状況を強いられている。せめてなんとか寒さを凌いで欲しいと仮設住宅の建設支援を行っているが、それも既報の通り寡婦や障がい者、高齢の方がいるなど一部の世帯に限られている。

被災者の人たちの願いは「地震に怯えずに済む家に住みたい」である。余震は未だ続き2月6日にもM5.5の地震が発生し、被害はそれほどでもなかったが村の人たちを恐怖に陥れた。

ただ耐震住宅の建設費は一軒当たり30万～60万Rs.かかると言われる。日本円では約40万～75万円。コープこうべの組合員の皆様から多額の1500万円をご支援いただいたとは言え、全てを投入しても20～35軒しか建設できない。村のほとんどの家を再建しなければいけない状況では、一部の人たちだけ助けるわけにはいかない。100世帯の村なら安くても4,000万円。地域全体なら途方もない額になる。農業や観光も地震により影響を受けており、2015年のネパールの経済成長はマイナスになる見込みだそう。水力発電など外資事業の撤退も続いている。加えて燃料の高騰などもあり、ただでさえ生活が厳しくなっている中、村の人たちだけで捻出するのは難しい。どうしても皆が安心できる家で暮らせるのか、正直、途方に暮れていた。

#### ◆政府の政策とリンクした支援

そんな時にネパール政府の支援策がようやく発表された。「画一的な支援を



モデル住宅一例。軒下が特徴的

実施するために」という名目の下、海外からの支援を一括管理してきた政府がようやく実効性のある政策を打ち出したのである。政府は7つの耐震住宅モデル設計を発表したそう（以下当会の現地カウンターパートNGO・SAGUN提供情報）。耐震構造を踏まえたモデル設計で造るのであれば、被災者（政府に認定された人のみ）には住宅再建のために30万Rs.を提供し、さらに30万Rs.を無利子で貸し出すというものだ。ただこの政策の実施が4月にずれ込んでおり、いつになるとも知れない。

それはさておき、SAGUNと協働で実施している大工と石工トレーニングはもちろんモデル設計を踏まえたものである。SAGUNは現地政府と連携し、いち早くモデル設計を指導できる指導者を確保した。現在は大工で9人、石工で11人がトレーニングを受けている。このトレーニングが終われば、政府の支援策を活用して、再建が可能になる。しかも、その建設における人件費が地域に残るというのも利点だ。このトレーニングは現地でも注目を浴び



大工トレーニングの様子

ており、視察に訪れる人たちもいる。

震災以降、絶望的でなかなか先が見えなかった復興への道のり。ようやく光が差ししてきた。耐震住宅の建設、そして生活に必要な収入の確保、まだまだ道のりは長い、希望が見えてきた。2016年度は被災者の収入向上プロジェクトに着手する予定である。



子どもたちが安心して育つ環境を

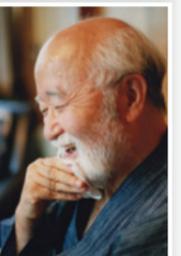
### 提唱者 温故知新 岩村昇語録

#### ～トリトリの誓い～

「我々二人は次のような人生を歩みませ。『トリ残された所へ行って、トリ残された人達と共に、トリ残された問題にトリ組みます』以上鳥取大学に因み、トリトリの誓い」

（『チトワンの農民と共に - ネパール農業開発計画の10年』より抜粋）

上記は史子さんとの結婚式での誓い。その後、ネパールからの求めに「すかさず手をサッと挙げ」誓いを実践された岩村先生。PHD協会も做りたいと思う。ネパールの地震、岩村先生なら何を想い、どんな行動をされるだろうか。







インドネシア出張報告 (2015年12月6日～10日)



PHD協会評議員  
納堂 邦弘

インドネシアで新プロジェクト!

Vol.2

今回の目的は、9月の訪問時に出された「有機農業」「牛銀行」「洋裁」「PHD弁当」という主な取組テーマ案に対して、研修生たち自身で具体的に活動できるものはどれか、その優先順位はどうかを確認することでした。そして、「牛銀行」に関して大きな動きが見られましたので、今号ではその現状を中心に報告します。

牛市場にも初めて同行し、ダスウィルさん(99年度)とマスラルさん(05年度)が牛の足の大きさや動きなどを確認しながら、数百頭の中から半日かけて5頭を選ぶこともできました。



良い牛を選んで満足そうなダスウィルさん

“牛銀行”始動!

前回訪問時に最も盛り上がった「牛銀行」。次のステップとして5頭(3頭は最貧困層の村人用、2頭は研修生用)の牛をトライアルで購入することを想定して、選定基準を検討し、実際に選考までを行ってみたいことを研修生たちをお願いしてありました。

結果として、村人の対象者は違う集落から1名ずつ計3名が選出され、研修生からは、現在牛のいないメラティさん(14年度)と現在メス牛がいてオス牛とセットで飼うメリットのあるアルウィさん(01年度)に決定していました。

課題としては、今回研修生たちは、失敗するリスクを減らすことを重視して、貧困の度合いよりも経験者を優先し、さらに準備期間不足から広く希望者を募集した上でのオープンな選考プロセスを経ていませんでした。今回の選考プロセスが続くようだと村の中で不満が生まれ、逆効果になりかねないので、次回からは広く周知し募集するという方針を共有しました。

(次号に続く)



PHD インドネシアの活動紹介ポスターができていました!

ロータリークラブが生み、育てて下さった PHD 協会

ロータリー米山記念奨学会

上田会長とサンティダさん  
(川西ロータリークラブ)



今年度、お世話クラブとして川西、加古川、篠山ロータリークラブの皆さまにお世話になりました。

サンティダさんは、2013年に受け入れていただいたモーママさん仕込みの日本語を褒めていただき、得意の踊りを披露させていただきました。

母国ネパールの被災者へ募金を募っていただき、カンチさんは精神的にも支えられました。また、笑ってごまかす日本語がいつも例会内に笑いを生んでいました。

ゾンさんは「イスラム教徒の私に対していつも心のこもった配慮に感謝している」と優しい心遣いに感動して

ました。一年間大変お世話になり、ありがとうございました。

今年も神戸ローターアクトクラブの皆様のご好意で2月3日に生田神社で節分祭を経験させて頂きました。

(井上理子)



堀口会長とワタナベさん  
(篠山ロータリークラブ)

保地カウンセラーとカンチさん  
(加古川ロータリークラブ)



PHD 活動紹介 11～2月末



11月

- 1 ネパール大地震チャリティイベント 櫻誓願寺打物奉納記念雅楽演奏会 ネパール活動報告(坂西)
7 コープボランティア交流会 バザー(芳田)
8 虹の家報告会 参加(坂西、井上)
8 NGO相談員エッセイコンテスト審査会(坂西、井上)
14 米山日本文化セミナー(研修生3名)
21 マイチケットスタディツアー合同説明会(芳田・田尻)
21 ウータン報告会 参加(坂西)
24 コープこうべ本田組合長訪問(坂西、井上)
25 兵庫県立国際高等学校 講義(研修生3名・中西・今里)
26 JOCA・NGOの評価力 グループディスカッション参加(坂西)
26 神戸NGO協議会 例会(井上)
27 兵庫県立明石城西高等学校 講義(今里・中西・カンチ・ゾン・ジェン)
30 NGO相談員近畿・北陸ブロック会議(坂西)

12月

- 1 NGO相談員全国会議(坂西・井上・今里・中西・田尻)～2日
2 NGO研究会 参加(坂西・井上)
5 タイスタディツアー事前説明会(芳田)
6 インドネシア出張(坂西・評議員納堂)～10日
7 大阪女学院 タイスタディツアー事前授業(芳田)
13 三木市国際交流協会 クリスマスパーティin三木(研修生3名・今里)
14 兵庫県ユニセフ協会評議員(坂西)
16 ネパール出張(坂西)～23日
17 兵庫県立鳴尾高等学校 講義(今里・田尻・研修生3名)
国際ソロプチミスト神戸 クリスマス会(芳田・サンティダ)
21 高砂市立阿弥陀小学校 交流会(研修生3名・田尻・今里)
23 タイスタディツアー(芳田・今里・坂西)～1月2日
26 ワンワールドフェスティバル for ユース 出展(田尻・中西)・NGO相談員(坂西・井上)・JICA×NGOコラボ企画 エッセイコンテスト受賞発表&「国際協力を仕事にしよう!」(坂西・井上)
29 中野さん餅つき大会(研修生3名・今里)

1月

- 4 神戸市シルバーカレッジ国際友の会新年会 参加(今里・中西・研修生3名)
6 神戸女子大学 講義(田尻・研修生3名)
7 職員募集説明会
9 ソディ例会、商品値札付け(芳田)
14 レインボースクール コープ新多間店 講義(芳田)
16 はらっぱ保育所 講演(今里)
21 アジア総合研究所アジア生協協力基金 プレゼンテーション(坂西)
23 関西ネパールフェスティバル 出展(井上・田尻・カンチ)
24 職員募集説明会
26 のぞみ保育園 交流会(今里・研修生3名)
大阪YMCA国際専門学校 講義(坂西)
27 関西NGO協議会 理事会(坂西)
28 名張市立桔梗が丘東小学校 講義(芳田・カンチ)
29 関西学院高等部 礼拝(坂西・カンチ)・SGH講義(坂西・ゾン・カンチ)
30 篠山ナマステ 交流会(研修生3名・今里)



現地NGOのカマルさんとランマヤさん(12年度)によるネパール大地震救援活動報告



国際協力についての話を  
(島根県立島前高等学校)



ワンワールドフェスティバル for Youth



ソディ例会でツアー参加者と一緒に手織り布製品に値札付け

2月

- 1 羽曳野市立西浦小学校 講演(坂西・中西)
2 宇治市立西小倉中学校 講演(坂西)
3 生田神社節分祭 参加(研修生3名・井上)
神戸市シルバーカレッジ国際友の会役員 来訪(坂西)
コープこうべ「ネパール活動報告会」打ち合わせ(坂西)
4 北淡中学校 交流会(今里・研修生3名)
多賀小学校 交流会(今里・研修生3名)
淡路島交流会(今里・研修生3名)
5 阿万小学校 交流会(今里・研修生3名)
6 企業CSR・NGO/NPO×クリエイターコラボプレゼン 講演(坂西)
ワンワールドフェスティバル NGO相談員(井上)
出展(芳田・田尻・中西)～7日
7 羽衣学園高等学校 講演(井上・研修生3名)
8 ランマヤさん(12年度)再来日
9 兵庫県立但馬農業高等学校 交流会(今里・研修生3名)
10 ペイフオワード 来訪(坂西)
12 かんさいCSネットワークフォーラム 参加(坂西)
13 コープこうべ主催「ネパール緊急募金寄贈団体の活動報告会」報告(坂西・井上・今里)
14 加東市連合婦人会 報告会(今里・芳田・研修生3名)
ネパール救援活動報告会(坂西・井上・今里・芳田・中西・研修生3名)
アジアを考える会北九州 交流会(ランマヤ・今里)
16 コープともしボランティア振興財団設立20周年記念式典(坂西)
インドネシア出張(評議員納堂)～21日
17 FMムーブ「上原ようこのやさしさラジオ」出演(坂西・井上)
18 国際ソロプチミスト姫路西 講演(芳田・カンチ)
毎日新聞 取材(カンチ・井上)
19 PHD協会理事会・運営協力委員会(坂西・井上・今里・芳田・研修生3名)
20 国内研修生募集説明会(今里・芳田)
21 ミャンマー関西 講義(サンティダ)
27 岩村史子さん宅 訪問(研修生4名・今里・坂西)
28 コープファミリーフェスタ バザー(芳田)

# ネパール大地震被災地支援 モニタリング報告



震災後の現地の状況、現在取り組んでいる支援プロジェクトについて2015年12月13日～23日までモニタリングを行いましたので、引き続きご報告させていただきます。(井上理子)

## マンガルタール

当会のカウンターパートである現地NGOのSAGUNと協働し、仮設住宅の建設を9月に開始。12月末には建設が完了する予定でしたが、下記のような理由により遅れてしまいました。

### 【国境封鎖による仮設住宅建設の遅れ】

復興に向けて立ち上がろうとした際、9月の新憲法制定の影響で同月中旬から2月末現在までインドがネパールとの国境を全部封鎖する事態が起きました。インドはネパールにとって生活必需品の主な輸入先です。中でも燃料不足が深刻な問題となり、市民の足であるバスの運行台数は激減、調理用ガスも底をつき、レストランやガソリンスタンドの多くが店を閉じなければいけない状況を強いられました。

またネパールと中国をつなぐ道路は4月の地震の影響で遮断され、陸路での輸入ルートの断絶状態が続き、医薬品、食料、仮設住宅建設の材料調達へも影響しました。上記の理由により、建設予定が大幅に遅れてしまいました。

### 【約2ヵ月遅れで仮設住宅建設完了】

今年2月SAGUNより「約250世帯の仮設住宅が完了しました」との報告がありました。カンチさん(16年度)の家族も対象世帯であり、寒い冬を仮設住宅で凌いでいるようです。

### 【村を歩けば「ちょっとムクさん!」】

マンガルタール地区では、引き続きムクさんがSAGUNのスタッフとして活動しています。自分の村ではない



マンガルタール地区の仮設住宅

地域でも村を歩けば声をかけられるムクさん。そんなムクさんの後ろを歩いていると、数百軒以上の対象世帯の家々を歩き周り、村の人に寄り添いながらこの仮設住宅建設プロジェクトを進めていることがよくわかりました。



仮設住宅建設対象者に今後の流れについて説明

## マハデブスタン

### 【命の水プロジェクト本格始動!】

ガハテ村では震災後、地盤の変化等の影響で、湧き水がかれてしまったとの報告を受け「命の水プロジェクト」を進めています。

重機が導入され、生活向上を目的として活動している女性グループのメンバーも水源の整備に参加し、村の人たちが主体となり取り組んでいます。パッサンさん(11年度)やランマヤさん(12年度)はこの女性グループで中心的な役割を担っています。



ガハテ村の水源を重機で整備 約90世帯が使用予定



女性グループの活動についてパッサンさんが コープこうべ本田組長に説明

### 【助産師ランマヤさんによる活動報告実施】

ランマヤさんが再来日し、2月13日には「ネパール大地震緊急募金寄贈団体の活動報告会(コープこうべ主催)」、2月14日には「ネパール大地震活動報告会(当会主催)」を実施しました。

地震発生時の恐怖や不安、そんな混乱の中自宅に戻り、家族の安否確認を行ったそうです。その後、現在まで被災した人たちのケアを助産師として約90人の赤ちゃんと取り上げたとの報告がありました。

マンガルタール地域では新たに収入向上プロジェクトを検討しており、ガハテ村の「命の水プロジェクト」と共に今後の取り組みについても見守って頂きたいと思っております。

## 帰った 研修生たちの今 ~タイ~



## ポケオ



### 【将来図】 コマさん(87年度)

「今までしてきたことは、村で豚、牛、魚のことにするグループを作ること。それから自治体の仕事を8年間しました。これは村の皆さんのために頑張りますの事です。そして、学校に行けない子どもたちを支援するプログラムを8年間やりました。最初は教会のプログラムだったけど、今はコミュニティでやっています。

5ヵ月前、村にトレーニングセンターができました。敷地は85ライ(1ライ=1600m)。コーヒー、牛、鶏、豚、野菜のことを勉強するところで、大学の先生が時々来て話します。この前の研修には50~60人ぐらいの人が来ました。お金は教会からで、村の人たちが一緒に造りました。将来図としてはトレーニングセンター、レストラン、布のお店、ホームステイもしたい。夢ですね。」

## メーサリアン

### 【「精米すると体がかゆくなる」 スラチさん(02年度)】



「私は、薬と化学肥料が好きじゃないです。有機農業をすると収穫は80%ぐらいで少ないけど、それでもいいです。村に戻ってから有機農業のことを村の人に話したけど、収穫が少ないから村の人はしなかったです。農業は中国や韓国などから入ってきていて、説明がタイ語じゃないと使用量や方法が分かりません。問題です。村から約1時間離れた山の村で精米の仕事を始めて8年。薬をたくさん使う人の米を精米すると体がかゆくなります。豚を5頭飼っています。1,500Bで子豚を買い、1年間肥育して1万Bで売ります。エサは籾殻と米糠です。もう少し大きな小屋を作って豚を増やしたいです。」

### 【「息子が生まれました」 ナロンテツさん(01年度)】



「車で4時間半の国境近くにある山の村の学校で、野菜の作り方や家畜の飼育について教える仕事を6年間しました。学校での仕事は楽しいし、山の子どもたちの生活は大変だから続けたかった。けど、2人目の子どもが生まれて大変だから、10月に辞めて村に帰ってきました。両親、家族と一緒に暮らすのがいいです。

今は、養豚、養鶏、魚の養殖、稲作、野菜作りもしています。あまりお金がないけど、村で仕事するのがいいかな。銀行とかでお金を借りて車とかを買うのは、しんどいからしないです。他には義理の兄の仕事を手伝っています。ミャンマーで牛(農耕用)を3万B(約10万円)で購入し、自分の村で1~3ヵ月育てて4万Bで売ります。」

## ムシキー

### 【「また日本で勉強したいです」 ポーディーニャさん(06年度)】



「有機農業をしています。村に帰ってから、ミシンを2台買って、布のグループのメンバーに教えることをがんばりました。今は農業が好きでがんばってます。できたらまた日本に行って勉強したいです。有機は体にいい、薬を使うのは好きじゃないです。昔はよく分からなかったから、たくさん使いました。難しいことは機械がないこと。大変だけど楽しいです。有機栽培のキャベツは10B/kg、慣行栽培は5B/kgで売ります。アーティチョークも作っていて、収穫は1年1回、1本で収穫が5kg(100B/kg)ぐらい。今は200本あるので、全部できれば10万B(約35万円)。村で作っているのは私だけです。」

### 【「昔はお金がないけど、大丈夫だった」 チャーユーさん(07年度)】



「村に帰ってからは10年間保健のボランティアを頑張ってきました。週に一回、15軒の家を回ります。糖尿病は人はどうしますか、高血圧の人はどんなものを食べるのがいいかなどを話します。もう一つは子どものこと。母乳の話をしたり、脳の発育具合などを検査します。今は風邪、糖尿病、ガン、そして心の病気が多いです。昔はお金ないけど大丈夫。野菜をつかって食べます。でも今は車がほしいから銀行でお金を借りて買います。例えば収入は1日100B、使うのは200B。100Bはどうしますか。心の問題は大変です。

これからは養鶏をします。今、鶏舎を作っていて、広さは40m×7m。高さは3.5m。これを10部屋に区切って、300羽ぐらいを飼います。餌は米、トウモロコシ、魚の骨、貝殻、塩を使います。」

# タイ・スタディツアー報告

2015年12月23日～2016年1月2日



12月24日 チェンマイYMCAの活動について聞く



12月25日 手織り布製品を検品



12月26日 コーヒー栽培の話聞く

## 吉村文さん (大学生)

わたしは物を買うとき、安くていいものが欲しいです。(シードンチャイ村の)お母さんのお話を聞いてから、それがなぜなのかと改めて考えると一つの答えが思い当たりました。それは作っている人の顔が見えていないからだということです。わたしはルチョコ\*1のみなさんの顔をひとりひとり見て、お名前を聞いて、その後で商品を買いました。その時、その安さに驚くとともに、本当にこの値段でいいのかと思いました。それはお母さんがひとつひとつを手作りで作っていると知っているからそう考えたのであり、日本で買うときはただ安くてラッキーと思うだけだったのだと思います。わたしは今まで正直なところ、フェアトレードには何の興味もなかったのですが、ルチョコ\*1のみなさんの話を通して考えたことは少なからずフェアトレードにもつながるものであり、これから物を買うとき、あるいは商品そのものに対する考え方が少し変わったと感じます。

ムシキーの村ではお母さんたちは商品開発に意欲的で、驚くことにこの時提案したものが帰る直前には試作品が完成していました。わたしはムシキーのお母さんたちがみんなプロだと感じました。



12月28日 山岳民族への支援活動を行っているNGOを訪問

## 横田裕子さん (団体職員)

様々な内容のスタディツアーがあるなか、少数民族による織物やコーヒー栽培といった、商品として身近に目にすることが多く興味がある内容だったため、参加を決定した。タイは4回目の訪問となるが、チェンマイと少数民族の村は初めて訪ねた。ツアーの最大の目的である元研修生の村にてホームステイをし、布の買い付けや村の見学等を行った。日本で農業や洋裁等の指導を受け、それを実践している研修生もいれば、商店を営んだり、それぞれ村で元気に過ごしていた。現在研修生を受け入れていないため、こうして会いに行くことが、日本との繋がりを実感できる数少ない機会であり、村人達のモチベーションになっているようだった。クリスマスや新年を村で過ごし、村人達の暖かさや絆といったものを肌で感じた。

今回いくつかの村を訪ね、それぞれの場所で人々が試行錯誤しながら生活を良くしていく為に頑張っていた。日本もかつてそうだったように、世界中には多くの同じような村がある。世界地図を見たときに、「この場所にあの人達がいる」と思える場所が少しずつ増えていくことはささやかな喜びで



12月29日 ポケオ村でコマさん(87年度)から話を聞く

ある。発展には失うものも伴うが、知識や経験は生活を豊かなものにもしてくれる。今回出会ったカレンの人達が自分達らしい豊かさを得られることを願うばかりである。戦後、支援される側から劇的に発展し支援する側となり、国際協力を60年続けてきた日本\*2だからこそ出来る国際協力の在り方を自分なりに考えていきたいと思った。また、国際交流にあまり興味が無い人へも、一旦自国を離れることで改めて見えてくる自国の姿や世界中の様々な価値観を知り考えることで、自分自身の気づきとなり成長となることを伝えていきたい。

\*1: シードンチャイ村にある手織り布のグループ  
\*2: 日本政府が国際協力を始めたのは1954年



12月30日 手織りの体験



大晦日 新年を迎える会に村の人たちが集まる

布を楽しみ、アジアに親しむ  
総勢15名で、山岳民族カレンの村を訪問!



2015年12月23日から翌年1月2日までの日程で行ったスタディツアー。タイ北部の山岳民族カレンの村で今年も元気なお母さんたちに会い、手織り布製品を購入してきました。カラー写真でご紹介でき、うれしい限りです。

## 今回の注文と製品

手織り布のグループのお母さんたちが丹精込めて糸を染め、織り、加工してくれた製品。日本での販路拡大が十分できていないため、在庫となってしまつたものもあります。毎年同じものを販売し続けることは難しい…。重々承知のことですが、販路拡大も商品開発も不十分で、担当として心苦しく思っていました。そこで、昨年度はソディ(カレンの布を応援するボランティアグループ)のメンバーと相談し、サンプルを作りタイに持参。新しいデザインや形の提案をしました。

毎年、夏過ぎに手織り布を作る2つのグループへ注文の手紙を送っています。今年度の注文では、ポーチの形や大きさをより使い勝手の良いようにしたり、ストールの長さを少しだけ長くしてもらうなど、ちょっとした変更をお願いしていました。こちらの意図がすべてうまく伝わったわけではありませんが、思い描いていたものとも出会えました。

注文分以外にも製品があり、その中から日本で紹介したいものをサンプルとして購入してきました。手に取ってくださる方々の反応を、次回の訪問時に、お母さんたちへ伝えたいと思います。



サイズを変え、マチをつけたポーチ

新しいエプロンも



お母さんたちの手織り布製品を検品(ムシキー村)

## お母さんたちとのミーティング 「こんなものが欲しい！」

今年も2つの手織り布グループを訪問し、例年通り、まずは注文していた商品の検品と購入をツアー参加者の皆さんと一緒に行いました。その後、参加者の皆さんにも注文分以外のものを見てもらい、気に入ったものがあれば購入していただきました。

その後、ツアー参加者を交えてお母さんたちとのミーティング。参加者の皆さんから「今回見た製品についての感想」と「こんなものがあたら欲しいと思うもの」を布のグループに伝えていただきました。皆さんが挙げられたものは、長財布、巾着、シュシュ、エコバッグ、ブックカバー、ヘアバンド(布の切れ端を使ったもの)、眼鏡ケース、マチ付きのバッグ、カバンの口が巾着のように絞れる形になっているものなどなど。皆さんからの話にお母さんたちは興味津々で、メモをとったり絵を描いたり。

それだけでは終わらなかったのが、ムシキーのお母さんたち。私たちがムシキーを離れる日の朝、メンバーのラッセーさんが手に何かを持って駆けてきてくれました。「あなたたち



巾着に肩ひもを付けてポシット風に(ラッセーさん)

が言っていたのは、こんなもの？」という感じで、巾着型のポーチを作って持ってきてくれたのです。これには、参加者一同びっくり。仕事が早いラッセーさん。「次回訪問時にも、何か新作が出てくるかも」と一つ楽しみができました。

## 販売開始しました!

1月2日に帰国。9日にはツアー参加者とソディのメンバーで、持ち帰った製品に値札付けを行いました。ツアーの写真を見たり旅の話をしなが、みんなでワイワイと楽しいひと時でした。ご参加いただいた皆さん、ご協力ありがとうございました!

そして、その日から始まった西日本研修旅行にも商品を持参し、販売を開始しました。まだ昨年度に購入した商品も一部残っているので、イベントへの出店の際には新旧合わせて販売しています。

「地域のイベントで販売できるよ!」、「お店で販売できるよ!」という方がおられましたら、是非ご一報ください。多くの方々にお母さんたちの手織り布製品を見ていただければこの上ない幸せです。どうぞよろしくお祈りします。(芳田弓生希)

## 2015 外務省NGO相談員事業、 2大トピック報告

2000年度から継続して受託している事業、今年度は2つの取り組みを実施。個別に報告させていただきます！

### ① 国際協力

#### 大学生エッセイコンテスト2015！

「国際協力の担い手育成」と「NGO相談員事業の広報」、この2つの目的を達成するためにエッセイコンテストを実施しました。なんと最優秀賞の方にはインドネシア・スタディツアー往復航空券をプレゼント、国際協力の現場に行ってください担い手になってもらう！という狙いです。

チラシをクリエイターのmiuさんをお願いして作成、一万枚印刷し、各大学などに広報をしました。結果、予想を大きく上回る141作品の応募がありました！デザインが良かったおかげ？



miuさん作。秀逸です！

11月8日には審査会を実施し、高校教員、NGOスタッフ、高校生の方々に審査委員になってもらい、受賞5作品を決定しました。立場がそれぞれで多様な意見が出過ぎて時間内に決まらないかもとハラハラドキドキでした。

#### <最優秀賞>

中川結理さん（立命館大学）

#### <優秀賞>

大谷悠花さん（南山大学短期大学部）

西上結菜さん（松山大学）

佐々木千華さん（桃山学院大学）

#### <奨励賞>

中村文乃さん（関西学院大学）

中川さんのエッセイの一部を抜粋してご紹介します。全文はHPでご覧ください。

-タイトル-

### 「自分」が共に生きる社会を 生きるという事

ある初老のフィリピン人男性から太平洋戦争にまつわる話を聞く機会があった。(中略) 実際に日本人によって深い傷を負った人の話を聞くのは初めてで、なかなか言葉を返すことができなかった。(中略) 私は人に何かを与えたいという気持ちで日本を離れたが、(中略) 課題を背負って帰ってくることとなったのだ。「日本人として生まれた自分」、これを追及せずして他人を救おうというのはあまりにも厚顔無恥であった。

そして12月26日ワンワールドフェスティバル for youthにて「JICA×NGOコラボ企画エッセイコンテスト受賞発表&国際協力を仕事にしよう」というイベントを実施し、受賞者全員に集まってもらいエッセイを朗読していただきました。受賞者同士の横のつながりが生まれるなど有意義な会となりました。



白熱した審査会！



受賞者の皆さんと一緒に

ました。本当は受賞者全員をインドネシアに連れて行きたいのですが、予算の都合でそうはいきません。その分、最優秀賞受賞者の中川さんには、帰国後レポートを書いていただきますので、楽しみに！

### ② NGO相談員全国会議 in 神戸！

12月1～2日、全国会議をPHD協会がホスト団体となって開催しました。外務省の方、全国のNGO相談員16団体の方、そして全国のJICA国際協力推進員の方が集うという大掛かりな会議でした。様子を写真でお伝えします。



坂西がメイン司会を担当。ドキドキでした



意見交換会では当会の水野理事長が挨拶



初となった全国の推進員との合同会議

## 退職のあいさつ

総務・財務担当 井上理子



別れ際、つつい涙がボロリ  
(2014年ミャンマー)

「国際協力は特別な人による特別な活動…」、大学生だった私が国際協力という分野に初めて触れた時の印象でした。

前職の大学職員時代「ネパール語通訳ボランティアを探しているんだけど事務所にちょっと遊びに来ない？」と前総理事代行に声をかけられたのがきっかけで関わる事になりました。大学で働く傍ら約2年間ボランティアとして関わり、2011年4月より職員となりました。

国際協力に出会ってから今まで色々なことについて学び、国際協力とは何だろうと自問自答しながら、仕事を両手いっぱいいつも抱えていました。しかし、ホストファミリー、通訳者、翻訳者、会員、協力者、ソディ、切手整理ボランティア…など、できること、好きなこと、得意な分野を生かして取り組む姿からヒントを頂き、PHD協会を取り巻く皆さんの関わりが国際協力そのものだと感じています。また、海外研修生からの悩みについては職員として対応すべきなのか、一人の人間として接するべきなのか、距離感に悩む事もありましたが退職後はいい友人関係を築いていけたらと思います。

私事ですが、昨年の入籍を機に働き方を考えたく退職させて頂くことになりましたが、まだどこかでお会いした際は声をかけさせて頂ければと思います。ありがとうございました。

4月からの総務・財務担当は、上石景子さんです。よろしくお願ひします。



2011年度から現在まで研修生の散髪業務も無事に終わりました

啓発担当 芳田弓生希



インドネシアの研修生たちも元気の素



タイツアーでお世話になったナロンデツさん

2000年からの5年と2012年からの4年の計9年間、啓発担当をさせていただき、皆さんには大変お世話になりました。PHD協会でも働き続けることができたのは、PHD協会に関わってくださっている皆さんがいてくださったからこそです。すべての方々に心から感謝申し上げます。

これまで日本で共に1年を過ごした研修生は29人。啓発担当ということで、普段は研修生と過ごす時間はあまりありません。それでも彼女・彼たちとの1年があったうでの村での再会は、私にとって大きな原動力となっていました。村で初めて出会った研修生も含めて、みんなの笑顔を見るだけで元気になれるかけがえのない存在です。タイ・カレンの手織り布グループのお母さんたちとも出会い、交流を重ねることができました。

笑いあり、涙あり、そして出会いに恵まれた9年でしたが、この度家庭の事情でPHD協会の職員を退かせていただくことになりました。今後は、家族と過ごす時間を大切にしながら、PHD協会でも出会った人たちともつながっていきたくと思っています。そしてまたいつの日か研修生の村を訪ね、お互いの暮らし、課題、これからの夢などを語り合い、またそれぞれの地で暮らしていく、そんなことができたら幸せです。

日本の各地に、アジアの村々に「また会いに行きたい」人たちがいてくれること、そして自分の暮らし方に問いを投げかけてくれた数々の出会いに感謝しています。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

後任の啓発担当は、八木純二さんです。詳しくは、7月号の会報にてご紹介させていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

**自動車総連  
福祉カンパ特別寄贈式に  
研修生と一緒に参加してきました！**

継続してご支援いただいている全日本自動車産業労働組合総連合会様。その名の通り自動車産業の労働組合の連合体で、組合員の皆様からのご寄附の一部を当会に寄贈して下さっています。その寄贈式に研修生と初参加。掛け合いで報告したのですが「漫才のようでこんなに楽しい寄贈式ははじめて」とお褒め？いただきました。この場をお借りして改めて組合員の皆様に感謝申し上げます！



相原会長からご寄贈いただきました！

**第34期研修生は  
4月8日来日予定です**



**ティダチョーさん**  
女性・24歳・ミャンマー  
研修予定：農業



**リンダさん**  
女性・22歳・インドネシア  
研修予定：洋裁



**スリジャナさん**  
女性・19歳・ネパール  
研修予定：保健

**PHD NEWS**

◆会費・ご寄附寄託状況

10月	44件	¥1,419,350
11月	16件	¥957,425
12月	311件	¥3,065,459
1月	101件	¥1,102,519
472件		¥6,544,753

上記に加えて、ネパール募金96件 ¥19,758,610を賜りました。自動車総連様、労働組合総連合会様をはじめ皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

◆PHDインドネシアのために

**布の提供をお願いします！**

日本で洋裁を勉強した元研修生たちが洋裁工房を立ち上げました。今後は練習や試作品の作成のために洋裁用の布が必要となります。もしご家庭でご不要な布がありましたら、当会まで送っていただければ幸いです。また大変申し訳ありませんが、送料はご負担お願いします。



**書き損じ・未使用ハガキは、  
ぜひPHD協会まで！！**



外貨コイン、使用済み切手、使用済みプリペイドカードも集めています。ご家庭でご不要になったものがありましたら、どうぞPHD協会までお寄せください。よろしくお願いいたします！！

**〇月×日のPHD協会**

**「芳田、井上との思い出」**

(芳田、井上は当会での一番の思い出)

**職員 坂西** 会議で新企画を出すと、大半は芳田が「それ違うのでは」とダメ出し。その安心感が量産に繋がっていたが、もう誰も止めてくれない。どうしよう。

**職員 今里** 芳田と言えば餃子、ビール、愛情深し。度々今里家で家族と食事。妻と娘は芳田好き、が、息子は抱っこされると必ず大泣き。凹む芳田、フアイトだ。

**職員 中西** 井上との出会いは研修生の通訳ボランティア。5年前。第一印象は笑顔の可愛い方。業務中、大量の仕事に囲まれながらも笑顔を維持。尊敬。

**職員 古寺** 井上、見た目は楚々とした御嬢さん。でも、外から指摘があっても動じない力強さ。しなやかに「はいはい」と受け流す。一番いい対応？

**職員 田尻** 井上一服はいつも黒、ぎっくり腰でもネパールダンス披露、実はお金の計算が苦手。芳田一虫歯がない、皆から頼りにされている芳田お姉さん。

**職員 井上** 5年間で一番の思い出は3月の帰国報告会。退職の挨拶、最後の大舞台。が、次第を見ると名前が道子。私の名前は理子。これが研修担当Iからの最後のプレゼント？残念です…。

**職員 芳田** 20周年記念事業。2日間で分科会も多数、元研修生を何人も再招聘。ボランティアさん、元職員も総動員。よくあれだけのことができたなど。皆様40周年もよろしくお祈りします。

**スタティツアーのご案内**

帰った研修生に会い、学ぶ旅。

一緒に出かけませんか？  
お問い合わせお待ちしております。

ネパール：7月下旬～8月上旬

ミャンマー：8月下旬

インドネシア：9月上旬

タイ：2016年2月下旬（予定）



編集協力：桃骨